

平成二十八年年度 江戸川看護専門学校 入学試験問題

国語 (一次試験)

注意

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 試験時間は六十分とする。
3. 受験番号、氏名を解答用紙に正確に記入すること。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. その他の注意事項は、試験官の指示に従うこと。

一

次の①～⑮の各文中のカタカナを漢字に直せ。

- ① ザン時…しばらくの間。
- ② ゼン次…しだいに。
- ③ 一セイ…そろって同時に行うこと。
- ④ 決サイ…代金の受け渡しをして、取引を終了すること。
- ⑤ カイ恨…残念に思うこと。
- ⑥ ブ辱…はずかしめること。
- ⑦ モウ膜…目にある膜。
- ⑧ コウ領…根本の方針。
- ⑨ ユウ合…一つにとけあうこと。
- ⑩ カク離…別々にへだてること。
- ⑪ マッチをスる。
- ⑫ シコウ錯誤。
- ⑬ 会長にオす。
- ⑭ 下ウけの仕事。
- ⑮ 全員イギなし。

二

次の①～⑧のそれぞれの言葉の意味を、後のア～コの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

- | | |
|----------------|--------------------|
| ① 推敲(すいこう) | ② 完璧(かんぺき) |
| ③ 杜撰(ずさん) | ④ 杞憂(きゆう) |
| ⑤ 破天荒(はてんこう) | ⑥ 登竜門(とうりゅうもん) |
| ⑦ 桃源郷(とうげんきょう) | ⑧ 五十歩百歩(ごじゅつぽひゃつぽ) |
- ア 自分を理解してくれる親友。
 イ 欠点がなく優れていること。
 ウ 俗世間から離れた別天地。
 エ 今まで誰もしていないことをする。
 オ 取り越し苦労。
 カ 冷淡な扱いをすること。
 キ たいしたちがいのないこと。
 ク 文章を練り直すこと。
 ケ 誤りが多くいいかげん。
 コ 立身出世のための関門。

三

次の①～⑩の各文中の（ ）に入る適当な慣用句を、後のア～セの中から選び、文を完成させよ。

- ① 彼は何でもよくできるが、字のまづいのが（ ）だ。
- ② 妹が卓球大会で優勝したので、ぼくは（ ）。
- ③ 弟のいたずらには、まったく（ ）。
- ④ 次から次へと仕事に追われて（ ）。
- ⑤ ほまれを人に譲り、（ ）。
- ⑥ だれもがいやがる世話役を（ ）。
- ⑦ 私には（ ）ような覚えはない。
- ⑧ 苦節二十年、やっと故郷に（ ）。
- ⑨ ドキュメントの制作に（ ）。
- ⑩ 金もないのに（ ）と、あとでひどい目にあうよ。

- | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|-------|
| ア | 玉にきず | イ | 手を焼く | ウ | 手があがる |
| エ | 錦を飾る | オ | 花を持たせる | カ | 目がまわる |
| キ | 見栄をはる | ク | 鼻が高い | ケ | 花がさく |
| コ | 猫をかぶる | サ | 恨みを買う | シ | 買って出る |
| ス | 肩を落とす | セ | 心血をそそぐ | | |

四

次の①～⑤の作者の属するグループ名（文芸思潮）を後のア～オから、作品名をa～eから選び、記号で答えよ。解答欄にはグループ名・作品名の順に記すこと。

- | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-----|
| ① | 川端康成 | ② | 田山花袋 | ③ | 太宰治 |
| ④ | 芥川龍之介 | ⑤ | 谷崎潤一郎 | | |

（グループ名）

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-----|
| ア | 自然主義 | イ | 耽美派 | ウ | 無頼派 |
| エ | 新思潮派 | オ | 新感覚派 | | |

（作品名）

- | | | | | | |
|---|-------|---|-----|---|----|
| a | 伊豆の踊子 | b | 羅生門 | c | 細雪 |
| d | 斜陽 | e | 蒲団 | | |

五

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

現代の人間関係は希薄になっているかという問いを投げかけると、たいていの人が「イエス」と答えるだろうと思う。何を希薄というかについて厳密な了解があるわけではない。ただ昔に比べて何となく身体間に通じる体温が冷ややかなものになっているという印象をだれもが抱いているに違いない。

この「印象」がどれだけ客観的な真実であるかどうかはしばらく措こう。ただ多くの人がなぜそういう印象をもつのか、その由来を言い当てることは割合簡単である。戦後半世紀のちょうど中間あたりで、日本には大きな変化が起きた。豊かな近代都市社会の完成である。都市社会は、情報通信網やもの・サービスの流通システムを発達させるから、当然、個人主義を促進し、個人同士がわざわざ身体間接触をしなくても日常生活に困らないという事態を実現する。暑苦しい地縁的なつながり、厳しい村落的な掟おきてといったものがその必然性を失うのだ。

(1) この変化の感覚が、私たちに、古いものへの郷愁を呼び起こす。過去はいつも美しく見える。(注1)のどちもと「喉元過ぎれば」の体で、かつての社会の抑圧性、貧困が引き起こす心のすさみといったことを私たちは忘れ、義理人情の生きていた世界とか、祭りにおける集団の熱気とかに思いをはせる。たしかに昔は、そういうよい意味での濃密さや「ぬくもり」に満ちあふれていたような気がしてくるのだ。だが (a) 昔がそんなによいことばかりであったはずはなく、私たちの多くがその特有のきつさ

から逃れたいと思ったからこそ、現在のような社会を作り上げてきたのだということをおぼえてはならない。

十九世紀から二十世紀にかけて活躍したドイツの社会学者テンニーズがゲマインシャフト（共同社会）とゲゼルシャフト（利益社会）という二項概念によって社会を把握しようとしたことはよく知られている。血縁や地縁など、自然的、伝統的な原理によって結ばれる社会関係が前者であり、株式会社のように、利益追求を原理としてばらばらな個人を人為的に結びつける社会関係が後者である。

この二項概念的な把握はたいへん便利などころがあつて、一見、社会の近代化に伴う変化の感覚をよく説明してくれるように思うので、だれもが無意識のうちに取っている思考方法である。近代社会の人間関係はゲゼルシャフト的なものがしだいにゲマインシャフト的なものを駆逐くわくしてゆく過程をたどると考えると、時代（いつの時代にも！）の危機意識に奇妙にフィットするのだ。現代を拝金主義とエゴイズム(注2)の時代と決めつけて嘆く態度などはこの典型である。ただ果たしてこの感覚は正しいのだろうか。

近代化の進展を共同体の崩壊過程と見なす把握の問題点は、ゲマインシャフトという枠付けが、マクロ的、現象的すぎて、その内部にある原理的な違いを区別できない点である。具体的にいえば、地縁社会と家族とはそれぞれの共同性の原理より見てけつして同一視できない。都市社会化は、たしかに地縁的な共同社会のきつさを (X) にしているが、家族的なきつさをもくずしていくかという、必ずしもそうでは

ない。たとえば確実な実証的根拠と呼ぶに値するものはないが、我が国における前近代としての江戸時代には、嫁をもらえないで一生独身で暮らす二男、三男は当たり前だったらしい。また、近代の黎明期(注4)としての明治初期はいまよりも離婚がずっと多かつたといわれている。この説に沿うなら、近代は（b）家族のきずなを強める方向にはたらいてきたのである。

さらに現代に視点を移してみよう。文部省（当時）統計数理研究所が五十年近く続けている国民性調査によると、「一番大切なものは」という問いに「家族」と答える人が高度成長の頃は一〇%台(注5)だったが、その後目立って増え、いまでは四〇%台で圧倒的多数を占めている。この結果をどう見るかはなかなか微妙である。家族にしかよりどころが見出せなくなったからその価値観に必死ですがりついているともいえるが、同時に、そうした危機意識の維持それ自体が、健全な共同性感覚の反映とも考えられるのである。

（c）、テンニース的な枠付けによる一種の「共同体崩壊史観」（彼がそういう史観をいっていたわけではない）にだけ従ってしまうと、現代のように、私たちの生活意識が「公」的な建前よりも「私」的な本音を重んじるようになってきたことの中に含まれる肯定的な意味を救い出せないのである。現代は利益社会化がもたら進んでいるわけではなく、一方ではむしろ「私」的なきずなを大切にしようとする傾向が強まっているのだ。

現代は孤独な引きこもりや、なかなか結婚に踏み切れない若い男女が

たしかに増えている。現代の「私」的なきずなは、村落社会のような地縁関係と規範に支えられなくなった分だけ、不安にさらされているといえるが、反面、こうした孤独感の深まりは、私たちが人間関係に対するまともな渴きを抱えていることでもあって、その「まともな渴き」のあり方に人間関係再構築の希望を見出すことも不可能ではないのである。

（小浜逸郎の文章による）

- （注）
- 1 「喉元過ぎれば」……「喉元過ぎれば熱さを忘れる」のこと。苦しい経験も時間が経つと忘れてしまうの意。
 - 2 エゴイズム……利己主義。
 - 3 マクロ的……巨視的。
 - 4 黎明……「夜明け」「始まり」の意。
 - 5 高度成長の頃……一九五五～七三年にかけての日本経済の目覚ましい発展を指す。

問一 傍線部(1)「この変化の感覚が、私たちに、古いものへの郷愁を呼び起こす」とあるが、こればどういふことか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えよ。

1 人をその生まれた土地と結びつけていた地縁や、村に言い伝えられていた約束事などの意義が見失われつつあると感じる人々はその喪失感を埋めるように、宗教的なものに心のよりどころを求めようになるということ。

2 人と人とのつながりが冷やかな関係になっていると感じる人が多くなるにつれ、かえって人々は互いにぬくもりを求め合い、集団的な一体感を築き上げようと努力するということ。

3 現代の人間関係が冷やかなものになるのを仕方のないことだと思ふ一方で、人々は昔の村落における人間関係のよさが忘れられないために、かえって、これからの社会における人間関係に対し、暗い見通ししかもてなくなるということ。

4 人間関係が希薄になっているように感じることによって、かつての社会がもっていた、濃密な人間関係をよいものとしてふりかえるようになるということ。

5 人々は、面倒で厄介な人付き合いから逃れようとして、現代の社会を作り上げたはずなのに、ひとたびそれが実現してしまうと、もはや新しい人間関係には魅力を感じなくなり、かつての人間関係の方が美しく感じられてしまうということ。

問二 空欄 a、c に入れるのに最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ（ただし、同じものを二度以上用いてはならない）。

- | | | | | | |
|---|-----|---|-------|---|------|
| 1 | むしろ | 2 | なぜならば | 3 | あるいは |
| 4 | つまり | 5 | もちろん | 6 | ところで |

問三 空欄 X に入れるのに最も適当な表現を次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- | | | | |
|---|-----------|---|----------|
| 1 | 象徴性に欠けたもの | 2 | 必然性のないもの |
| 3 | 一般性のあるもの | 4 | 共同性のあるもの |
| 5 | 先進的なもの | | |

問四 傍線部（2）「人間関係に対するまともな渴きを抱いている」とあるが、それはどのようなことか。句読点とも六〇字以内で説明せよ。

問五 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選び、番号で答えよ。

1 社会の近代化に伴う変化の様相を把握する上で、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトという二つの概念を駆使して理解しようとするのは、人々の思考方法に適した理になつたやり方である。

2 近代都市社会の成立は、人々の生活を豊かにし、個人主義の浸透を促すことにもなつたが、それと並行して、近代以前の社会における習慣や決まりごとなどが復活することになつた。

3 現代人は地縁的きずなの崩れによって孤独感を深めているが、そこに新たな人間関係を築き上げる可能性が生じていると見るべきである。

4 現在、家族を重要視している人々がかなりの率でいるという事実は、それだけ人々が家族というものに対し、未来に渡って自己の生命を託するに足る、半永久的な場だと考えている証拠であり、それ自体健全な考えである。

5 現代の人間関係が、昔に比べて、ぬくもりに欠けた冷やかなものになっているということは多くの人々が感じていることであり、さまざまな統計やデータなどを通じて、誰の目にも明らかとなつている事実である。

五					四	三	二	一			
問五	問四				問一	①	①	①	⑪	⑥	①
					問二		②	②			
					a						
						②	③	③	⑫	⑦	②
					b						
							④	④			
					c						
						③	⑤	⑤	⑬	⑧	③
					問三						
							⑥	⑥			
						④			⑭	⑨	④
							⑦	⑦			
							⑧	⑧			
						⑤			⑮	⑩	⑤
							⑨				
							⑩				

受験番号

平成二十八年 江戸川看護専門学校 入学試験 解答用紙

国 語 (一次試験)

氏名

得点